

平成十七年十月末刊

クレス出版

# 神西清日記Ⅱ

石内 徹 編

既刊『神西清日記 昭和十八、十九年』を補完する日記。

名翻訳者として一世を風靡した神西清（一九〇三～一九五七）の戦前から戦後の生活、見聞や体験、思索のほか、数々の交友が綴られている貴重な資料。

## 〈収録日記〉

- ① 昭和三年（一九二八）九月十八日～十一月二十六日
- ② 昭和十一年（一九三六）二月一日～十三日
- ③ 昭和十一年（一九三六）七月六日～昭和十六年（一九四一）一月十四日
- ④ 昭和二十年（一九四五）一月一日～四月二十八日
- ⑤ 昭和二十一年（一九四六）四月二十三日～十二月二十四日
- ⑥ 昭和二十六年（一九五一）一月一日～六月九日

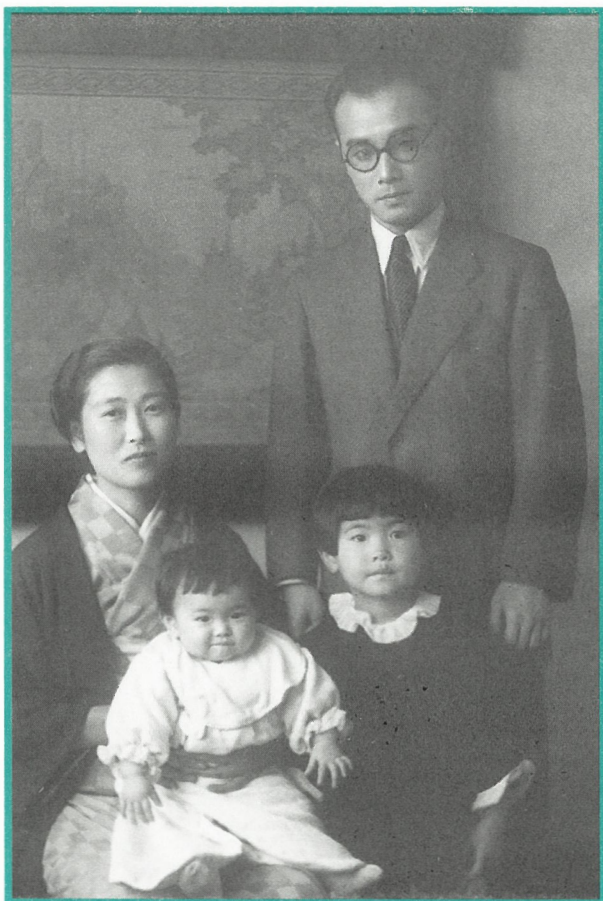
● A5判／上製函入クロス装／本文クリーム中性紙／定価九、五〇〇円（税別）

ISBN4-87733-302-9

● 既刊『神西清日記 昭和十八、十九年』定価九、〇〇〇円（税別）

ISBN4-87733-084-4

神西清と家族（昭和十五年十月）



## 『神西清日記』Ⅱについて

石内 徹

神西清は、ロシア文学やフランス文学の翻訳で盛名を馳せた名訳者である。また、小説家として「垂水」や「雪の宿り」などの珠玉の名品を生み、さらに、『散文の運命』などの評論や文芸時評、書評などに麗筆を振った評論家でもある。神西清の批評や書評が、いかに犀利ですぐれていたかは、その没後、それらの文章が、二葉亭や鷗外、芥川、鏡花、堀、折口信夫、大岡昇平など枚挙に暇ないほど多くの作家の研究書に基本文献として繰り返し収録されたことによって理解される。また、堀辰雄の最も親しい友人として、病身の堀に代り雑誌「四季」を編集した作家としても文学史に足跡をとどめている。

昭和十一年十二月十二日の日記で、神西清は、文学を「小説」と「小説以外（日記や随筆など）の作品」とに二分して捉え、その両分野に同等の重要性を認めた。これに翻訳を加えたものが神西清の文業だったのである。三分野は鼎立しており、その一分野として神西清は、日記に注目し、重視していたのである。

本書は、以前上梓した『神西清日記 昭和十八、十九年』を補完する日記である。この二冊の日記の上梓によって、神西清の日記は、ほぼすべてが公開されたことになった。本書は、昭和三年の北海道帝国大学図書館嘱託として札幌に赴任した二十六歳の時期から、昭和二十六年、鎌倉で作家、翻訳者として活躍していた四十九歳の時期までに残された日記を複製したものである。

日記には、堀辰雄をはじめ、川端康成、室生犀星、大佛次郎、永井龍男、丸岡明、大岡昇平、中山義秀などの作家や、小林秀雄、河上徹太郎、吉田健一、福田恆存、辻野久憲、竹山道雄、吉村鉄太郎などの評論家、それに有島生馬や折口信夫などが名を連ね、その素顔が点描されていて興が尽きない。まるで、昭和文学史の裏面を垣間見る思いがした。

本書は、神西清研究のまぎれもない一級の資料である。また、昭和文学研究にとっても本書上梓の意義は大きい。本書の刊行を慶賀し、ここに推薦する次第である。

（清和大学短期大学部）



昭和十一年  
七月十六日

十二時三十分

水曜  
晴

虚舟は多岐にわたる。

でいるなら一作ごとく虚舟であるようにするがよい。

陣痛が強い方が安産である。

神よ、曲をたまたましそ、真実を喰ひたまへ。

以上ある小説を  
（書きなごし）

十二時ごろ永井君の声に話を終らる。

大井さん、朝日の社員三人（白井隆彦、斎藤一、大宮富子）

（東京局）

部員、総勢五人なり。種々色々な同人の空想と撮

りによくところなりといふ。

寝る目眼で二廷に立っておで、今回もまじにほんほん撮うかとい

まふ。大井さん及び朝日空想部員のカメコなり。

午後廿時三十分の見舞いに行く。

今日が教員誕生に際する儀禮的雑用一掃。

この二十一日に「遠方の會」あり、出席した。久しぶりの集は  
会場。

### 近代文学作品論集成

各巻4,800円(税別)

#### 第Ⅰ期全10巻

ISBN4-87733-103-4(セット)

- ①樋口一葉『たけくらべ』作品論集 高橋俊夫編 104-2
- ②森 鷗外『舞姫』作品論集 長谷川泉編 105-0
- ③夏目漱石『こころ』作品論集 猪熊雄治編 106-9
- ④芥川龍之介『羅生門』作品論集 志村有弘編 107-7
- ⑤志賀直哉『暗夜行路』作品論集 町田 栄編 108-5
- ⑥川端康成『伊豆の踊子』作品論集 原 善編 109-3
- ⑦井伏鱒二『山椒魚』作品論集 松本武夫編 110-7
- ⑧太宰 治『走れメロス』作品論集 山内祥史編 111-5
- ⑨宮沢賢治『銀河鉄道の夜』作品論集 石内 徹編 112-3
- ⑩中島 敦『山月記』作品論集 勝又浩・山内洋編 113-1

#### 第Ⅱ期全10巻

ISBN4-87733-141-7(セット)

- ⑪泉 鏡花『高野聖』作品論集 田中勳儀編 142-5
- ⑫梶井基次郎『檸檬』作品論集 鈴木貞美編 143-3
- ⑬谷崎潤一郎『夢喰心虫』作品論集 笠原伸夫編 144-1
- ⑭永井荷風『つゆのあとさき』作品論集 高橋俊夫編 145-X
- ⑮堀 辰雄『風立ちぬ』作品論集 竹内清己編 146-8
- ⑯大岡昇平『野火』作品論集 亀井秀雄編 147-6
- ⑰三島由紀夫『金閣寺』作品論集 佐藤秀明編 148-4
- ⑱島尾敏雄『死の棘』作品論集 志村有弘編 149-2
- ⑲安部公房『砂の女』作品論集 石崎 等編 150-6
- ⑳遠藤周作『沈黙』作品論集 石内 徹編 151-4



株式会社 クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>